

雨あがる (After the Rain)

観賞日 2025年2月10日 上映時間 91分

【概要】

制作 2000年

監督 小泉堯史

脚本 黒澤明

原作 山本周五郎

音楽 佐藤勝

撮影 上田正治

出演 寺尾聰（三沢伊兵衛）、宮崎美子（三沢たよ）、三船史郎（永井和泉守重明）、吉岡秀隆（榊原権之丞）、井川比佐志（石山喜兵衛）、原田美枝子（おきん）、松村達雄（説教節の爺）、仲代達矢（辻月丹）



【あらすじ】

剣の腕は滅法立つが人の好い浪人、三沢伊兵衛と妻たよの夫婦は道中、長雨で川止めに遭い松葉屋という旅籠に投宿することになる。同宿者たちは連日の宿泊でイライラが募り喧嘩を始める者もあらわれる。見かねた伊兵衛は夫婦間で禁じていた賭け試合で資金を稼ぎ同宿者たちに酒肴をふるまう。久し振りの御馳走に同宿者たちの鬱屈した雰囲気は一気に解消。翌日、雨があがり外出した伊兵衛は若侍たちの果し合いに遭遇し仲裁に入る。偶々、それを目撃した藩主の和泉守重明は伊兵衛の腕にほれ込み城に招く。重明は伊兵衛の経歴を聴き藩の剣術指南番に指名するが、保守的な家老たちは反対し、結局、御前試合を観てから決めることになる。御前試合当日、藩の者では伊兵衛に全く歯が立たず最後は藩主自ら槍を持って挑むが池に落とされる始末。後日、結果を告げにやって来た家老が語った意外な結果と理由。それを聞き憤慨した妻のとよが放った言葉は。また、それを聞いた藩主重明が採った行動は。

山本周五郎の短編小説の映画化。黒澤亡きあと黒澤組が再結集した秀作。

【解説】

■ポイント

●制作経緯

- ・黒澤明は脚本執筆中に骨折し療養生活に入り脚本を完成させることなく死亡する（1998年）。
- ・小泉は長年黒澤の助監督を務め、黒澤の残した脚本を黒澤の資料を基に完成させる。
- ・黒澤の息子の久雄が通夜の時、小泉にこの作品の監督を務めてほしいと話し、黒澤組の面々に呼び掛けてクランクインしたのがこの作品である。

●受賞（2001年・第24回日本アカデミー賞）

12部門でノミネートされ、下記の通り主要部門を含む9部門で受賞

作品賞、監督賞、脚本賞（黒澤明）、主演男優賞、助演女優賞（原田美枝子）、音楽賞、撮影賞

照明賞、美術賞

■見どころ

- 観終わった後の清々しさ（今時見られなくなった？素晴らしい夫婦）

伊兵衛：宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の詩を地ていくような生き方

とよ：藩主を奔らせた言葉「大切なことは何をしたかではなく、何のためにしたかということ」